

水稻の7月下旬の巡回調査結果の概要

【東北信】 調査日 7月20日、21日

＜東北信地域の巡回調査ほ場：東信15ほ場、北信14ほ場、計29ほ場＞

1 葉いもち

- (1) 発生地点率は、東信地域では平年と比べ低く、北信地域では平年並であった。
- (2) 発病株率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ低かった。
- (3) 発病度は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ低かった。

2 紋枯病

- (1) 発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年並であった。
- (2) 発病株率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べやや低かった。

3 白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病

巡回調査ほ場では、発生は確認されなかった。

4 ばか苗病

- (1) 巡回調査ほ場では、発生はみられなかった。
- (2) ただし、東信地域の巡回調査対象外の一部ほ場では、発生がみられた。

5 ニカメイガ（芯枯れ）

- (1) 発生地点率は、東信地域では平年と比べやや高く、北信地域では高かった。
- (2) 芯枯れ率は、東信地域では平年と比べ低く、北信地域では高かった（写真1）。



写真1 ニカメイガによる芯枯れ（北信地域）

6 ウンカ類・ツマグロヨコバイ

(1) ヒメトビウンカ

ア すくい取り調査（ネット20回振：以下同様）による発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べやや高かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ高かった。

(2) ツマグロヨコバイ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域では平年と比べ高く、北信地域では平年と比べ低かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域では平年と比べやや少なく、北信地域では平年並であった。

(3) セジロウンカ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ低かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ少なかった。

(4) トビイロウンカ

巡回調査ほ場では、発生はみられなかった。

7 斑点米カメムシ類

(1) 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ高かった。

(2) 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ多かった。

(3) 捕獲種は、東信地域ではアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、トゲシラホシカメムシの順に多く、北信地域ではアカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ、アカヒメヘリカメムシの順に多かった。

※「病害虫発生予察注意報 第2号（7月29日発出）」のとおり

8 その他

(1) イナゴ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域では平年と比べ低く、北信地域では平年と比べやや低かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ少なかった。

(2) クサキリ・ササキリ類

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域では平年と比べやや高く、北信地域では平年と比べ高かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ多かった。

(3) フタオビコヤガ（イネアオムシ）

ア 東信地域の巡回調査ほ場では、発生はみられなかった。

イ 北信地域の発生地点率（幼虫）は、平年と比べ低かった。

ウ 北信地域の平均捕獲頭数（幼虫）は、平年と比べ少なかった。

(4) その他

調査対象害虫ではないが、東信地域の1ほ場では、イチモンジセセリ（イネツトムシ）の成虫が多くみられた（写真2）。



写真2 イチモンジセセリ成虫（東信地域）

【中南信】 調査日 7月21日、22日、23日、24日

＜中南信地域の巡回調査ほ場：南信15ほ場、中信17ほ場、計32ほ場＞

1 葉いもち

南信地域の2ほ場で病斑を確認した。発生地点率は平年と比べ低く、発病株率及び発病度は低かった。中信地域の巡回調査ほ場では、発生は確認されなかった。

2 紋枯病・白葉枯病・黄化萎縮病・ばか苗病・黄萎病

巡回調査ほ場では、発生は確認されなかった。

3 ニカメイガ（芯枯れ）

巡回調査ほ場では、発生は確認されなかった。

4 ウンカ類・ツマグロヨコバイ

(1)ヒメトビウンカ

ア すくい取り調査（ネット20回振：以下同様）による発生地点率（成虫、うち短翅成虫及び幼虫）は中信地域の成虫及び幼虫で平年並、その他はいずれも平年と比べ高かった。

イ 平均捕獲頭数は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ多かった。

(2)ツマグロヨコバイ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、南信地域の成虫で平年と比べやや高く、その他はいずれも高かった。

イ 平均捕獲頭数は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ多かった。

(3)セジロウンカ、トビイロウンカ

巡回調査ほ場では捕獲されなかった。

5 斑点米カメムシ類

(1)発生地点率は、南信地域で平年並、中信地域で平年に比べ高かった。中信地域は約半数の巡回調査ほ場で出穂が始まっていた。

(2)平均捕獲頭数は、南信地域で平年と比べやや多く、中信地域で多かった。

(3)捕獲種は、南信地域ではホソハリカメムシが9割を占め、中信地域ではアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシの順に多かった（写真3）。

※「病害虫発生予察注意報 第2号（7月29日発出）」のとおり



写真3 水田内のイヌビエとホソハリカメムシ成幼虫（南信地域）

6 その他

(1) イナゴ

ア 発生地点率は、南信地域で平年と比べやや低く、中信地域で低かった。

イ 平均捕獲頭数は、南信地域で平年並、中信地域ともに平年と比べ少なかった。

(2) クサキリ・ササキリ類

ア 発生地点率は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べやや低かった。

イ 平均捕獲頭数は、南信地域で平年と比べやや少なく、中信地域で平年と比べ少なかった。

(3) フタオビコヤガ幼虫（イネアオムシ）

南信地域では、発生地点率は平年並、平均捕獲頭数は平年と比べやや多かった。中信地域では捕獲されなかった。

(4) その他

ア 南信地域の1ほ場で、イチモンジセセリ（イネツトムシ）の成虫がすくい取り調査で捕獲された。

イ 中信地域の2ほ場で、縞葉枯病の罹病株がみられた（写真4）。



写真4 イネ縞葉枯病の発病株（中信地域）